as first-line chemotherapy for clear cell carcinoma of the ovary (CCC): Japanese gynecologic oncology group study. 15th International Meeting of the European Society of Gynaecological Oncology (ESGO). Berlin, Oct.

11) Ueda K, Yamada K, Aoki K, Takahashi H, Urashima M, Okamoto A, Yasuda M, Ohkawa K, Tanak T. Study of CD147 expression in endometrial carcinoma and cervical carcinoma: correlation with clinicopathogenesis. 第66回日本癌学会学術総会．横浜，10月．

IV. 著　書

1) Eifel PJ, Gershenson DM, Kavanagh JJ, Silva EG 編．田中忠夫，山田恭輔監訳．婦人科癌：MD アンダーソン癌センターに学ぶ癌診療．東京：シュプリンガー・ジャパン，2007.

V. その他

1) 田中忠夫，杉浦健太郎，恩田威一，大浦訓章，池谷美樹，和田誠司，梅原永能，林　博，遠藤尚江，斎藤隆和．母体血清マーカーによる二分脊椎症胎児のスクリーニング－高齢妊娠および生殖補助医療による妊娠の影響－．厚生労働省精神・神経疾患研究委託　二分脊椎症の診断・治療及び予防システムに関する研究　平成18年度研究報告書 2007; 30-1.

2) 落合和徳，小林　直，新美茂樹．乳がん患者とくにタモキシフェン服用中患者の血中ホルモンプロフィールと子宮内膜の変化について．厚生労働省がん研究助成金による研究　ホルモン補充療法が乳がんの診療に及ぼす影響とその対策に関する研究（課題番号：15-19　主任研究者：佐伯俊昭）．2007; 67-9.

3) 落合和徳．妊娠とがん．岳南産婦人科医会学術講演会．富士，10月．

4) 落合和徳．婦人科がん．日本がん治療認定機構教育委員会編．がん治療認定医教育セミナーテキスト．日本がん治療認定機構教育委員会：東京，2007. p. 122-8.

5) 落合和徳．解説：HRT を行う際に患者に伝えるべき情報　ホルモン補充療法を受けた女性は卵巣がん発症・死亡リスクが高い．MMJ 2007; 3(11): 891.

泌尿器科学講座

教　授：	頴川　晋	前立腺癌，泌尿器悪性腫瘍，腹腔鏡手術
教　授：	小野寺昭一	尿路性器感染症
准教授：	池本　庸	男性科学，前立腺癌
准教授：	山崎　春城	前立腺癌，腫瘍生化学
准教授：	岸本　幸一	尿路感染，老人泌尿器科学
准教授：	和田　鉄郎	尿路性器腫瘍，癌化学療法
准教授：	清田　浩	尿路感染症，前立腺肥大症，エンドウロロジー
准教授：	浅野　晃司	尿路上皮腫瘍，分子腫瘍学
講　師：	古田　希	副腎腫瘍，尿路結石
講　師：	鈴木　康之	排尿障害，女性泌尿器科
講　師：	波多野孝史	腎細胞癌
講　師：	三木　健太	前立腺癌

教育・研究概要

I. 泌尿器悪性腫瘍に関する研究

1. 基礎的研究

1) プロテオーム解析による前立腺癌および尿路上皮癌特異新規腫瘍マーカーの探索

プロテオーム解析法による新しい前立腺癌および尿路上皮癌バイオマーカーを探索している。本研究から前立腺癌新規バイオマーカー TT902 を発見した。前立腺摘出検体を用いた検討では TT902 の発現と前立腺癌の悪性度，進展度に有意な相関があった。これらの結果は第96回日本泌尿器科学会，第66回日本癌学会等で発表した。

2) 泌尿器癌に対する遺伝子治療の基礎的検討

前立腺癌，膀胱癌に対する新しい遺伝子治療の基礎的研究を行っている。前立腺癌に対しては，自己増殖型レトロウイルス（replication competent retrovirs: RCR virus）やレンチウイルスに前立腺特異的プロモーターを使用することで，前立腺特異的ウイルスベクターを開発し，導入効率，治療効果，安全性について検討している。この結果は第14回日本遺伝子治療学会，第66回日本癌学会で発表した。

3) 前立腺癌幹細胞についての検討

現在その存在が示唆されている前立腺癌幹細胞の分離とその性質の同定，さらに癌幹細胞に対する治療を目標に研究している。これまでにヒト前立腺癌細胞株のなかで CD133 陽性の分画には幹細胞様の性質を有する細胞が存在することを発見し，Cancer Research 誌に発表し，第96回日本泌尿器科学会等で発表した。

2. 臨床的研究

1) Intermediate risk 前立腺癌に対する小線源永久挿入療法における補助内分泌療法効果の検討

早期前立腺癌に対する放射線治療として I^{125} 密封小線源を前立腺に挿入する小線源永久挿入療法を2003年10月より行っている。当院は国内2番目に同治療を開始しており，現在治療計画法による線量計算の違いや，副作用の発生頻度につき研究中である。Intermediate risk 群に対して補助内分泌療法効果の効果を検討している。

2) High risk 前立腺癌に対する，外照射併用高線量率組織内照射療法の検討

High risk グループの前立腺癌の治療の際に外照射併用高線量率組織内照射療法（HDR brachytherapy）とホルモン治療の種類と投与期間の違いにより治療効果と副作用にどのように影響するかを検討している。

II. 感染症・STD に関する研究

1. 基礎的検討

近年蔓延しつつあるキノロン・セジキシム耐性淋菌に対する各種薬剤併用効果を *in vitro* で検討した，その結果，マクロライド系抗菌薬（クラリスロマイシンあるいはアジスロマイシン）と β-ラクタム系抗菌薬（セフテラムあるいはオーグメンチン）との間に抗菌力の増強効果を認め，これを J Inf Immun に掲載した。

2. 臨床的検討

「東京泌尿器科 STD 研究会」を組織して，首都圏における淋菌性尿道炎の動向について調査を継続している。各種抗菌薬の淋菌に対する感受性の検討でニューキノロン薬に対する耐性化がさらに強まり，またセフィキシム耐性株も出現してきた。1で述べたような基礎的検討から淋菌性尿道炎に対するクラリスロマシシンとセフテラムの併用療法について臨床研究を行っている。現在のところこの併用療法では下痢などの重篤な副作用もみられず90％以上の臨床効果を得ており，この結果を日本性感染症学会第20回学術集会で発表した。

III. 排尿障害に関する研究

1. 排尿障害に関する研究

薬物療法が主の過活動膀胱の罹患頻度は加齢とともに上昇する。しかし，高齢者は薬物代謝機能低下で予想外の副作用を生じる可能性がある。そこで抗コリン薬と α 遮断薬を対象とし，少量での有用性を検討した。前者の結果は第14回日本排尿機能学会（2007年）にて報告した。

また，客観的排尿状態評価に有用とされる Frequency-Volume chart の認知度を上げるため第95回日本泌尿器科学会総会（2007年）における報告を行い内容を投稿中（ファーマナビテーターシリーズ in press）である。

また，植物製剤の前立腺肥大症治療における臨床効果を再検討し報告（泌尿器外科，20：1215-1220, 2007）した。

2. 夜間頻尿の病態解明とその治療

夜間頻尿を惹起する因子である心不全に注目し，その指標となる脳ナトリウム利尿ペプチド（BNP）量と夜間尿量比等を検討しその重要性を第95回日本泌尿器科学会総会（2007年）にて報告した。また，治療の一環として前立腺肥大症を伴う夜間頻尿にて α 遮断薬が睡眠の質を上げることを報告（臨床泌尿器科，61：997-1001, 2007）した。

IV. 腎・内分泌・副腎腫瘍に関する研究

1. 腎温存手術後の患側残存腎機能評価における術前 99mTc-MAG3 腎動態シンチグラフィの有用性の検討

本研究は 99mTc-mercapto-asetyl-triglycine（以下 MAG3）を用いた腎動態シンチグラフィによる患側残存腎機能の評価・術前予測を試み，術後の患側残存腎機能の術前予測が可能であるか否かを検討した。腎温存手術前後に 99mTc-MAG3 を用いた腎動態シンチグラフィを施行した11例について，有効腎血漿流量（ERPF）の術前予測値と術後残腎での実測値について比較した。術前 ERPF 予測値と実測値の間には強い相関が認められ，術後残存腎機能の術前予測のために 99mTc-MAG3 を用いた腎動態シンチグラフィは，有用な検査の一つであると考えられた。

2. 副腎腫瘍における腹腔鏡手術の有用性に関する検討

副腎腫瘍の標準術式である腹腔鏡下副腎摘除術の有用性を検討するため，開放性手術との retrospective な比較検討を行った。対象は過去10年間に手術を施行した片側副腎腫瘍138例で，内訳は腹腔鏡下手術が90例，開放性手術が48例（うち6例が腹腔鏡下手術からの conversion）であった。疾患の内訳では，APA，CS，PCS の皮質腺腫が約60％を占め，PCT は約20％であった。両術式の周術期データの比較では，腫瘍径に差があるものの，手術時間は同等。出血量は，腹腔鏡下手術が有意に少なく，輸血

例数も腹腔鏡手術が少なかった。腹腔鏡下手術における拡大視野，気腹圧による出血リスクの軽減が理由と考えられた。また，腹腔鏡下手術は，術後の歩行，食事の開始，および退院までの期間が有意に短く，術後のQOLが良好な術式であることが示唆された。

V. Endourology & ESWLに関する研究

1. 前立腺肥大症に対する経尿道的前立腺焼灼術（HoLAP）の臨床的検討

HoLAPは出血が少なく生理食塩水を還流液として用いるためTUR反応がないためTURに替わる治療法として期待されている。平成17年から現在までに45例にこれを施行し，良好な治療成績を得ており，この結果を第21回日本Endourology・ESWL学会で報告した。

2. 上部尿路結石に対する体外衝撃波結石破砕術

平成14年7月に体外衝撃波結石破砕装置ドルニエDを導入し，平成19年3月までに776例，808結石を対象にESWLを施行した。結石の部位別内訳は腎結石340結石，尿管結石468結石であり，部位別の有効率は各々，腎杯結石では78.5%，腎盂結石では76.7%，上部尿管結石では84.8%，中部尿管結石では88.8%，そして下部尿管結石では87.3%であった。これらは外来日帰り治療を原則としており，良好な治療成績を得ることができた。

3. パイロニー病に対する体外衝撃波治療（ESWT）

平成15年8月に高度先進医療として認可されたが，平成17年7月に高度先進医療を取り消されたため自費診療で行うこととなった。現在までに12例に本治療を行った。11症例では陰茎海綿体の硬結は縮小あるいは軟化し勃起時の陰茎痛は消失したため性交は可能となり良好な成績を得ることができた。今後さらに症例を積み重ねてその有効性について検討していく予定である。

「点検・評価」

2007年は論文投稿や日本泌尿器科学会をはじめ多くの分科会での研究発表など比較的多くの研究業績を残すことができた。腫瘍研究ではプロテオミクス，遺伝子を中心とした基礎研究や他施設共同での臨床研究で多くのプロジェクトが進行するとともに，前立腺癌幹細胞についての研究も始まった。感染症・STDに関する研究は，引き続き近年注目されている薬剤耐性淋菌を基礎と臨床の両面から検討中である。排尿障害・EDに関する研究は排尿症状の客観的評価法を確立し，臨床研究を中心に加齢や睡眠障害と排尿状態との関係を比較検討した。腎・内分泌・副腎腫瘍に関する研究においては，近年の画像診断装置の進歩・発展に伴う最新の知見を，形態と機能の面から報告をすることができた。現在，放射線科と共同での多くの臨床研究も進行している。また，Endourologyの領域と重複するが，副腎腫瘍に対する腹腔鏡下手術がすでに標準術式であることを報告し，腎臓における部分切除，ablation therapyなどの新しい分野への臨床研究も進行しているEndourology & ESWL研究班は，従来より行われている尿路結石，パイロニー病に対する研究に加え，前立腺肥大症に対するレーザー治療（HoLAP）を導入し，積極的に臨床研究を行っている。

研　究　業　績

I. 原著論文

1) Matsumoto K, Irie A, Satoh T, Ishii J, Iwabuchi K, Iwamura M, Egawa S, Baba S. Expression of S100A2 and S100A4 pedicts for disease progression and patient survival in bladder cancer. Urology 2007 ; 70(3) : 602-7.

2) Miyata H, Yoshikawa I, Ikemoto I, Eto, Y. Right testicular necrosis and left vanishing testis in a neonate. J Pediatr Endocrinol Metab 2007 ; 20 : 449-54.

3) Kimura T, Koya RC[1], Anselmi L[1], Sternini C[1], Wang HJ[1], Comin-Anduix B[1], Prins RM[1], Faure-Kumar E[1], Rozengurt N[1], Cui Y (Louisiana State University), Kasahara N[1], Stripecke R[1] ([1]UCLA). Lentiviral vectors with CMV or MHCII promoters administered *in vivo* : immune reactivity versus persistence of expression. Mol Ther 2007 ; 15(7) : 1390-9.

4) Koya RC[1], Kimura T, Ribas A[1], Rozengurt N[1], Lawson GW[1], Faure-Kumar E[1], Wang HJ[1], Herschman H[1], Kasahara N[1], Stripecke R[1] ([1]UCLA). Lentiviral vector-mediated autonomous differentiation of mouse bone marrow cells into immunologically potent dendritic cell vaccines. Mol Ther 2007 ; 15(5) : 971-80.

5) Hiraoka K[1], Kimura T, Logg CR[1], Tai CK[1], Haga K[1], Lawson GW[1], Kasahara N[1] ([1]UCLA). Therapeutic efficacy of replication-competent retrovirus vector-mediated suicide gene therapy in a multifocal colorectal cancer metastasis model. Cancer Res 2007 ; 67(11) : 5345-53.

6) Hayashi N, Urashima M, Ikemoto I, Kuruma H,

Arai Y, Kuwao S, Baba S, Egawa S. Prostatic-specifinc antigen adjusted for total prostatic tumor volume as a predictor for outcome after radical prostatectomy. Prostate Cancer Prostatic Dis 2007; 10(1): 60-5.

7) Miki J, Furusato B, Li H, Gu Y, Takahashi H, Egawa S, Sesterhenn IA, McLeod DG, Srivastava S, Rhim JS. Identification of putative stem cell markers, CD133 and CXCR4, in hTERT-immortalized primary nonmalignant and malignant tumor-derived human prostate epithelial cell lines and in prostate cancer specimens. Cancer Res 2007; 67(7): 3153-61.

8) 鈴木康之，高坂　哲，鈴木英訓，古田　昭，長谷川雄一，小杉　繁，伊藤　洋，木戸雅人（藤村病院泌尿器科），頴川　晋．排尿障害と睡眠障害　α遮断剤はBPHの睡眠障害を改善するか．臨泌 2007; 61(12): 997-1001.

9) 鈴木英訓，山本順啓，後藤博一，池本　庸，冨田雅之，鈴木康之，頴川　晋，中條　洋，波多野孝史．前立腺肥大症に伴う排尿障害に対するエビプロスタットの効果．泌外 2007; 20(9): 1215-20.

10) 波多野孝史，鈴木　鑑，永島徳人，山口泰広，讃岐邦太郎，岸本幸一，頴川　晋，砂川好光，原田潤太．腎細胞癌骨転移例に対する放射線治療の局所効果に関する検討．泌紀 2007; 53(10): 687-90.

11) 長谷川雄一，古田　希，讃岐邦太郎，頴川　晋．目でみるシリーズ　リハ医が知っておきたい術式のポイント　泌尿器科　膀胱腫瘍に対する手術．J Clin Rehabil 2007; 16(9): 798-802.

12) 長谷川雄一，頴川　晋．目で見るシリーズ　リハ医が知っておきたい術式のポイント　泌尿器科　腎疾患に対する手術．J Clin Rehabil 2007; 16(10): 902-5.

13) 山田裕紀，木村高弘，三木健太，岸本幸一，大石幸彦，森　豊，頴川　晋．腎温存手術後の患側残存腎機能評価における術前99mTc-MAG3腎動態シンチグラフィの有用性．泌紀 2007; 54(2): 89-93.

14) 佐々木裕，頴川　晋．前立腺癌の治療法　高リスク群に対する考え方．泌外 2007; 20(臨増): 2443-7.

15) 小杉　繁，池本　庸，古田　昭，下村達也，清田　浩，鈴木康之，岸本幸一，頴川　晋，鳥居伸一郎，白井　尚，武内宏之，阿部和弘．過活動膀胱を伴った前立腺肥大症症例に対するナフトピジルと塩酸タムスロシンとの治療効果の比較検討．日泌会誌 2007; 98(5): 691-9.

II. 総　説

1) Furuta A, Carr LK, Yoshimura N, Chancellor MB. Advances in the understanding of stress urinary incontinence and the promise of stem-cell therapy. Rev Urol 2007; 9(3); 106-12.

2) Furuta A, Jankowski RJ, Pruchnic R, Yoshimura N, Chancellor MB. The potential of muscle-derived stem cells for stress urinary incontinence. Expert Opin Biol Ther 2007; 7(10): 1483-6.

3) Furuta A, Jankowski RJ, Pruchnic R, Yoshimura N, Chancellor MB. The promise of stem cell therapy to restore urethral sphincter function. Curr Urol Rep 2007; 8(5): 373-8.

4) Furuta A, Jankowski RJ, Honda M, Pruchnic R, Yoshimura N, Chancellor MB. State of the art of where we are at using stem cells for stress urinary incontinence. Neurourol Urodyn 2007; 26(7): 966-71.

5) 寺地敏郎，頴川　晋，川端　岳，近藤幸尋，中川　建，田中正利．【前立腺癌に対するMinimmaly Invasive Therapyのエビデンス】 腹腔鏡下根治的前立腺摘除術の位置付け　ガイドライン作成の立場から．Jpn J Endourol ESWL 2007; 20(2): 150-5.

6) 斉藤誠一[1]，頴川　晋，遠藤希之（仙台厚生病院），荒井陽一[1]（[1]東北大学）．【前立腺癌　基礎・臨床研究のアップデート】 基礎研究　バイオマーカー　RM2抗原．日臨 2007; 65(増刊10 前立腺癌): 117-9.

7) 清田　浩．下部尿路症状（LUTS）診療の最前線慢性前立腺炎．臨泌 2007; 61(6): 417-23.

8) 清田　浩．尿路感染症の現状と今後の展望　病院感染対策とUTIサーベイランス．泌外 2007; 20(臨増): 561-4.

9) 清田　浩，古田　希，三木健太，木村高弘，頴川　晋．【〝エキスパートが示す内視鏡手術のコツ〟(II) Endourology】 経皮的腎結石破砕術．Jpn J Endourol ESWL 2007; 2(2): 186-93.

10) 清田　浩，頴川　晋，小野寺昭一．尿路系内視鏡（膀胱鏡・腎盂尿管鏡）．感染制御 2007; 3(6): 561-6.

11) 鈴木康之．【本当に理解できてる？　尿失禁タイプ別のケア完全マスター】 過活動膀胱（OAB）ってどんな病気？　泌ケア 2007; 12(12): 1164-6.

12) 下村達也，頴川　晋．【JUA前立腺癌診療ガイドライン：初版の読みどころと改訂へ向けての課題】放射線治療．泌外 2007; 20(6): 753-9.

13) 山田裕紀，頴川　晋．前立腺癌　治療最前線．成人病と生活習慣病 2007; 37(5): 557-63.

14) 佐々木裕，頴川　晋．【前立腺癌　基礎・臨床研究のアップデート】 臨床研究　治療　QOL　QOLを考慮した限局性前立腺癌の治療選択．日臨 2007; 65(増刊10 前立腺癌): 593-7.

15) 面野　寛，古田　希，頴川　晋．【日常診療で遭遇する尿路トラブル】 水腎症．腎と透析 2007; 63(2): 216-21.

III. 学会発表

1) 池本 庸，長谷川雄一，高坂 哲，頴川 晋，豊島裕子，白井 尚．下部尿路症状男性の排尿状態と性機能．第95回日本泌尿器科学会総会．神戸，4月．［日泌会誌 2007；98(2)：332］

2) 清田 浩．(イブニングセミナー 2)難治性慢性排尿障害に対する治療戦略．慢性前立腺炎．第72回日本泌尿器科学会東部総会．札幌，8月．

3) 鈴木康之，高坂 哲，鈴木英訓，古田 昭，長谷川雄一，成岡健人，面野 寛，梅津清和，小杉 繁，本田真理子，頴川 晋．夜間多尿と心機能の関連（夜間尿量比と脳性ナトリウム利尿ペプチド）．第95回日本泌尿器科学会総会．神戸，4月．［日泌会誌 2007；98(2)：379］

4) 鈴木康之，高坂 哲，鈴木英訓，長谷川雄一，古田昭，成岡健人，小杉 繁，頴川 晋．高齢過活動膀胱に対する塩酸プロピベリン少量投与の有効性と副作用軽減に関する検討．第14回日本排尿機能学会．福島，10月．

5) 古田 希，佐々木裕，小出晴久，山田裕紀，頴川 晋．副腎褐色細胞に対する腹腔鏡下副腎摘除術の有用性の検討－開放性手術との比較－．第19回日本内分泌外科学会総会．名古屋，5月．

6) 遠藤勝久，小野寺昭一．(シンポジウム)性感染症の動向－変貌する尿道炎－．第95回日本泌尿器科学会総会．神戸，4月．［日泌会誌 2007；98(2)：142］

7) 波多野孝史，鈴木 鑑，永島徳人，山口泰広，讃岐邦太郎，岸本幸一，並木 珠，最上拓児，砂川好光，原田潤太，頴川 晋．腎手術症例に対する術前血管評価における64列マルチスライスCTの有用性．第95回日本泌尿器科学会総会．神戸，4月．［日泌会誌 2007；98(2)：360］

8) 波多野孝史，鈴木 鑑，大塚則臣，山口泰広，面野寛，岸本幸一，三木健太，頴川 晋，最上拓児，原田潤太．腎腫瘍に対するMRガイド下凍結療法の長期治療成績．第72回日本泌尿器科学会東部総会．札幌，8月．

9) 波多野孝史，鈴木 鑑，大塚則臣，山口泰広，面野寛，岸本幸一，讃岐邦太郎，頴川 晋，砂川好光，原田潤太．腎細胞癌骨転移に対するbisphosphonateと放射線併用療法の臨床的検討．第45回日本癌治療学会総会．京都，10月．

10) 三木健太．(教育セミナー)ヨウ素125永久挿入小線源治療ステップアップをめざして．第95回日本泌尿器科学会総会．神戸，4月．

11) Furuta A, Jankowski RJ, Pruchnic R, Honda M, Kim DK, Yoshimura N, Chancellor MB. Increased activity of α1-Adrenoceptors after human muscle-derived stem cells injection into the denervated. ICS 2007(37th Annual Meeting of the International Continence Society). Rotterdam, Aug. [Neurourol Urodyn 2007；26(5)：695-6]

12) Furuta A, Honda M, Kim DK, Pruchnic R, Jankowski RJ, Chancellor MB, Yoshimura N. Bladder overactivity induced by chronic pudendal nerve ligation injury is assocated with increased expression of nerve growth facter and activation of α1-adrenoceptors in the rat bladder. ICS 2007(37th Annual Meeting of the International Continence Society). Rotterdam, Aug. [Neurourol Urodyn 2007；26(5)：698-9]

13) Kimura T, Haga K[1], Logg CR[1], Hiraoka K[1], Lawson GW[1], Matusik RJ (Vanderbilt University Medical Center), Bochner BH (Memorial Sloan Kettaring Cancer Center), Egawa S, Stripecke R[1], Kasahara N[1]([1]UCLA). Transcriptional targeting achieves effective control of systemic dissemination by replication-competent retrovirus. American Society of Gene Therapy 10th Annual Meeting. Seattle, June.

14) Kimura T, Koya RC[1], Wang H[1], Cui Y, Faure-Kumar E[1], Prins RM[1], Comin-Anduix B[1], Ohashi T, Eto Y, Egawa S, Kasahara N[1], Stripecke R[1] ([1]UCLA). Comparison of the effect of lentiviral vectors containing the CMV or MHCII promoter after intravenous administration for genetic vaccination. 第13回日本遺伝子治療学会．名古屋，6月．

15) 木村高弘．(シンポジウム)ハイリスク前立腺癌の治療戦略診断．第72回日本泌尿器科学会東部総会．札幌，8月．

16) Shimomura T. Laparoscopic radical cystectomy. Our preliminary experience. 24th Korea-Japan Urological Congress. Korea, Oct.

17) 山田裕紀，頴川 晋．術後PSA再発および早期癌に対する間欠的内分泌療法．第95回日本泌尿器科学会総会．神戸，4月．

18) 長谷川雄一，吉良慎一郎，讃岐邦太郎，沼崎 進，車英俊，木村高弘，池本 庸，頴川 晋．当院における精巣悪性疾患の臨床的検討．第72回日本泌尿器科学会東部総会．札幌，8月．

19) Miki J. Identification of putative stem cell markers, CD133 and CXCR4, in in prostate cancer. 1st World Congress on Controversies in Urology (CURy) in Barcelona. Barcelona, Feb.

20) 佐々木裕，頴川 晋．腹腔鏡下前立腺全摘除術における神経温存手段－intrafascial nerve-sparing－．第21回日本Endourology & ESWL学会．東京，11月．

IV. 著　書

1) 頴川　晋，加藤伸樹．総論 第3章 検査ＥＸ線検査．NEW 泌尿器科学．改訂第2版．東京：南江堂，2007. p. 61-4.
2) 池本　庸．2. 不妊の検査 D-2. 尿道分泌液･前立腺液の検査．日本生殖医学会編．生殖医療ガイドライン 2007．東京；金原出版，2007. p. 153-4.
3) 鈴木康之．行動療法･手術療法．西沢　理編．下部尿路障害：これだけは知っておきたい日常診療のポイント．東京：医薬ジャーナル社，2007. p. 69-79.
4) 鈴木康之．第1部 2-3 尿失禁の原因と分類．田中秀子，溝上祐子監修．失禁ケアガイダンス．東京：日本看護協会出版会，2007. p. 10-5.
5) 鈴木康之．第1部 3-A 排尿機能のメカニズム．田中秀子，溝上祐子監修．失禁ケアガイダンス．東京：日本看護協会出版会，2007. p. 20-7.
6) 鈴木康之．第2部 4-A 排尿機能検査．田中秀子，溝上祐子監修．失禁ケアガイダンス．東京：日本看護協会出版会，2007. p. 226-32.
7) 鈴木康之．第3部 6-A 薬物療法．田中秀子，溝上祐子監修．失禁ケアガイダンス．東京：日本看護協会出版会，2007. p. 326-9.
8) 鈴木康之．第3部 7-A 手術療法．田中秀子，溝上祐子監修．失禁ケアガイダンス．東京：日本看護協会出版会，2007. p. 332-7.
9) 鈴木康之．第3部 8 電気磁気刺激法．田中秀子，溝上祐子監修．失禁ケアガイダンス．東京：日本看護協会出版会，2007. p. 343-4.

V. そ の 他

1) Furuta A, Chancellor MB.　Lower urinary tract symptoms and the placebo effect.　Rev Urol 2007；9(3)：161-2.
2) Furuta A, Chancellor MB.　Health care usage, botulinum toxin for overactive bladder.　Rev Urol 2007；8(4)：234-5.
3) 山崎春城．ルポ 慈恵医大病院･国際医療福祉大三田病院・診療所 国内初の前立腺がん地域医療連携パス．Cancer Review 2007；3：19-23.
4) 近藤直弥，塩野　裕，吉野恭正，菅谷真吾，阿部光文，腰高　豊（町田市民病院）．対側腎無形成をともなった精嚢嚢胞に発生した乳頭状腺癌の1例．泌紀 2007；53(3)：175-8.
5) 秋葉直志，丸島秀樹，遠山洋一，小林　進，原田潤太，波多野孝史，岸本幸一．呼吸困難を呈した若年者胸部病変の2例．慈恵医大柏病医報 2007；15(1)：19-21.
6) 車　英俊，佐々木裕，三木健太，頴川　晋．【ここが聞きたい　泌尿器科処置･手術とトラブル対処法】 泌尿器科手術　腹腔鏡下前立腺全摘除術　腹腔鏡下前立腺全摘除術を行う際の神経温存について悩んでいます．どう対処すればよいか，そのコツを教えて下さい．臨泌 2007；61(4)：185-7.
7) 鈴木康之．排尿障害（下部尿路症状）と睡眠障害の関係 Med Tribune 2007；9月27日号：64-5.
8) 古田　希．前立腺肥大症～患者のQOLと治療方針～．Medicament News 2007；1918(9月5日)．